

新型コロナウイルス感染症による自粛が始まっておよそ一年が経ちました。

朝倉郡内では47人の感染者がでています。今は少し落ち着いているかもしれませんが、いつまた私たちの身に襲い掛かってくるかわかりません。次は変異株が猛威を振るうとも言われています。習慣になった「マスク・手洗い・消毒」頑張っ続けていくしかありません。

このような状況下の中、学校運営協議会では、コロナ禍における教育活動や学校施設の充実に向け、教育委員会への意見・要望を行いました。今後も学校と地域が一体となった教育活動が推進されるよう取り組んでいきます。

弥四郎さんの心を受け継いで



2月18日。二分の一成人式(4年生)がありました。この式典で4年生が踊る「弥四郎の里」は毎年少しずつかわることもありますが、下級生は、4年生になったら、この踊りや演奏をするのだと強く思うのです。とても凛々しく立派なのです。今年はフェイスシールドを付けての舞でしたが、4年生の自信に満ち溢れた姿に感動しました。

では、弥四郎さんとはどんな方だったのでしょか？弥四郎は、親を大切にすゝる息子でした。村の人には大きな声であいさつ。朝早くから田畑に出て働く。飼馬には声をかけ優しく接する。他人の気持ちを考えて労う心を持っていました。そしてついにはお奉行の耳にも弥四郎の評判は伝わり「夜須の朝日の弥四郎は親

に孝行尽くすなり…」と歌を添えて田畑を与え一生年貢を納めなくてよいとお墨付きまでもらったのでした。4月23日は弥四郎さんの命日です。386号線沿いの弥四郎の碑がある神社を探してみてください。



地域の偉人である「弥四郎さん」の親孝行や働くことを惜しまない心を中牟田小の子どもたちにも受け継いでほしいと願っています。

平和を誓う「被爆クスノキ二世」

中牟田小学校の正門から入ってすぐの左側に、ちょっと背の高い木が植えてあるのをご存じですか？「被爆クスノキ二世」です。6年生は修学旅行で長崎を訪れた際に、毎年、母なるクスノキを見に行きます。長崎山王神社のクスノキは、熱線で焼かれガラスや石が幹の中に食い込みました。一時は枯れ木同然でしたが、見事に生き残り人々に勇気と希望を与えてくれました。そのクスノキの種から苗を作り、その苗は、「被爆クスノキ二世」として、国内外の平和を願う街に送られました。中牟田小学校にある被爆クスノ



キ二世も2000年に新しくなった体育館の落成式の時に植樹されました。平和の樹である被爆クスノキ二世。子供たちの成長をこれからも見守ってほしいと思います。クスノキの前に掲示板が出来ています。時々覗いてみてください！

～追伸～

今年度はコロナで色々なことが中止となり、サンシャイン通信も2号で終了です。今後も学校・保護者・地域ともに協力し合い中牟田小校区をみなさんで見守っていただけたらと思います。